

対象	小学校高学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学5年 「わたしたちの 生活と工業生産」 ・ これからの工業生産と わたしたち 中学3年(公民) 「これからの 日本経済の課題」 ・ 循環型社会に向けて
教科書	東京書籍・教育出版等
掲載日	2017.12.15. 朝刊 12版 6面

資源リサイクル目指す

【バンコク＝山上隆之】トヨタ自動車は十四日、豊田通商などと協力し、タイで車の廃車処理や資源リサイクルの支援に乗り出すと発表した。タイには廃車処理に関する法律がなく、エアコンの冷媒に使われる温室効果ガスのフロンが大気中に漏れ続けるなど、環境悪化が懸念されている。二年間の実証結果を踏まえ、タイ政府への政策提言を目指す。

トヨタによると、廃車処理を巡り自動車メーカーが政府を支援するのは世界で初めて。

バンコク近郊にある豊田通商子会社のリサイクル工場に月二十台程度を持ち込み、フロンやオイルなどを回収。さらに解体して中古部品や資源として再利用する。こうした実証を二年間続け、業者の許認可や廃車手続きなどタイの事情に沿った法整備を提言する。

日本の「自動車リサイクル法」のような法律がないタイでは現在、廃車となった車は業者がそれぞれ「保管」していることになっているが、事実上は野放し状態

トヨタ 廃車処理でタイ支援



廃車となった車の多くは事実上放置されている。バンコク郊外で（トヨタ提供）

だ。一方で市場は拡大を続けており、年間で数万台程度にとどまっている廃車台数は、二〇二〇年ごろから二十万〜三十万台に増える予想されている。

バンコクで記者会見したタイのスラサック天然資源・環境相は「廃車の放置が環境に与える影響は計り知れず、トヨタの支援に感謝したい」と謝意を表明。現地法人タイトヨタのニンナート会長は「循環型社会づくりをタイ政府と一緒に考えたい」と意欲を語った。

問1：トヨタがタイでまず2年間行おうとしている取り組みをまとめましょう。

- ()程度を()に持ち込み、()や
- ()などを回収、さらに()して()や
- ()として再利用する取り組み

問2：なぜ廃車処理をしないといけないのでしょうか。

から

問3：現在、事実上野放し状態のタイの廃車の数は、今後どうなると予想されていますか。

()頃から()に増える

発展：日本の資源リサイクルの現状について、自分の意見を書いてみましょう。